

【例会報告】

令和5年度身延山大学国際日蓮学研究所例会

令和6年1月18日(木)午前8時50分より、「令和5年度身延山大学国際日蓮学研究所例会」が開催された。本年度は国際日蓮学研究所所員の金炳坤教授を講師とし、「2023年『法華論』テキスト研究の現在」と題しての発表がなされた。

発表では、『法華経』についてのウパデーシャとして現存唯一の文献である世親『妙法蓮華経優婆提舍』（『法華論』）を取り上げ、そのテキスト研究の主として近年における状況と成果についての概観がなされた。まず『法華論』の法華経学史上における位置づけが述べられ、つづいて『法華論』の諸本を校合しての検討がなされ、とくに菩提流支訳『法華論』の註釈である円弘『妙法蓮華経論子注』の資料的価値についての意義づけが示された。

今回の例会は身延山大学生も聴講しており、『法華経』教学の研究、ひいては文献学研究の手法について多くの学びを得られる、初学者から研究者までにとって有意義な例会となった。

